

進路意思決定過程における 情報探索方略とメタ認知

2005年9月10日

下村英雄

(労働政策研究・研修機構)

本発表の問題意識

- 進路選択研究者を悩ませる1つの難問
「やりたいこと志向」の是非

従来の進路選択研究

- 「やりたいこと」を明確にする。
- 将来の夢や目標を明確にする。

最近のフリーター研究

- フリーターの就労意識
「やりたいこと」志向
- 「やりたいこと」探しには
まって抜け出せない若者。

本発表の問題意識

- 進路意思決定過程における情報処理を分析することで、この難問に一定の答えを出したい。

Q1. 「やりたいこと」志向は是非か。

Q2. 「やりたいこと」志向の内容をどう考えるべきなのか。

- 「やりたいこと」がある 「志望の明瞭性」高いことが、進路意思決定過程における情報処理にどのような影響を与えているのか。



- 「やりたいこと」がある 「志望の明瞭性」高い者は、どのような情報をどのような順番で探索するのか (情報探索方略) を明らかにする。

方法 - 模擬的な進路意思決定場面 による検討(情報モニタリング法)

業種	01	02	03	04	05
情報	教員公務	情報処理	商社	マスコミ	旅行
01 福利厚生	0101	0201	0301	0401	0501
02 自分のやりたいこと ができる可能性	0102	0202	0302	0402	0502
03 社風	0103	0203	0303	0403	0503
04 自分が成長できる 可能性	0104	0204	0304	0404	0504
05 会社の安定性	0105	0205	0305	0405	0505
06 自分の関心との一致 度	0106	0206	0306	0406	0506
07 会社の方針	0107	0207	0307	0407	0507
08 自分の興味が活 かせる可能性	0108	0208	0308	0408	0508

コンピュータに「0305」と入力すると「会社の安定性はかなり良いようです」のように表示される。

偶数番号が「自己関連情報」、奇数番号が「企業属性情報」

データ例 自己関連情報の探索 太字選択肢ごとの情報探索
001 0102 0202 0302 0402 0403 0404 0405 0407 0507 0607 0503
0303 0304 0305 0307 0308 0408 0508 0608 0708 0808 ~

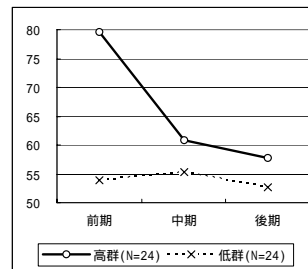
方法 職業レディネス(明瞭性)尺度

1. 自分のつきたい職業は、前から決まっており、現在でもそれに向かって、準備を進めている。
2. 自分が興味をもっている職業の内容は、十分知っているので、就職のためにどのような条件が必要であるかは、よく分かっている。
3. いろいろ迷ったが、最近では、自分がどのような職業につくべきがよくわかってきた。
4. 自分は、職業の上で将来の目標があるので、それを実現させるために、自分でいろいろ考えてやっていく。
5. いままでの経験から、自分にどの程度の能力があり、どのような方面に適しているかは、だいたいわかっている。

明瞭性高群: 平均値18.92 SD1.67

明瞭性低群: 平均値11.92 SD2.70 t(38.29)=10.81 p<.01

結果 どんな情報をどの段階で 重視したのか。

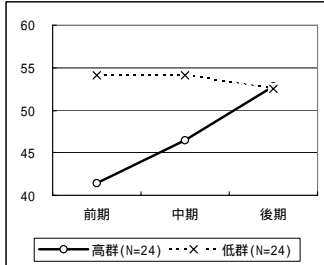


志望が明瞭な者は、初期段階で自己関連情報を選択的・集中的に探索する割合が高かった。

明瞭性×探索段階の交互作用 (F(2,92)=3.96 p<.05)
前期: 明瞭性高群 > 低群 (t(37.1)=3.48 p<.01)

明瞭性高群・低群別の自己関連情報探索率(%)

結果 どのように選択肢を絞っていったのか。



志望が明瞭な者は、探索段階が進むに連れて、選択肢ごとに情報探索を行う割合が高くなる傾向がみられた。= 選択肢を絞り込んで集中的に見るようになった。

明瞭性×探索段階の交互作用 (F(2/92)=2.40 p<.10)
明瞭性高群：探索段階の要因

明瞭性高群・低群別の選択肢ブロック出現率(%) (F(2/46)=2.54 p<.10)

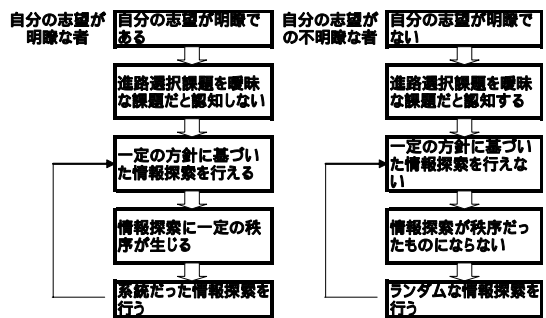
結果 実験結果の整理およびその他の結果

- 志望の明瞭な者は、初期段階で「自己関連情報」を選択的・集中的に探索する。選択対象を絞り込むような情報探索を行う。
- 志望の不明瞭な者は、一貫した情報探索を行えない。

その他の結果

- 志望の明瞭な者は、もともと進路選択を曖昧な課題であるとは認識していない (t(46)=5.47 p<.01)。実験中は、自分にピッタリな情報が提示されていると思っている (t(46)=2.12 p<.05)。自分が選択した結果がベストであると信じている。
- 志望の不明瞭な者は、そうではない。

「志望の明瞭性」による情報探索方略の違い



「志望の明瞭性」による望ましいと思う情報探索方略の違い

- | 志望が明瞭な者が「良い」と考える方略 | 志望が不明瞭な者が「良い」と考える方略 |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ■ 最初の段階でできるだけ少ない業界に志望を絞り込んでおくべきだ ■ 最初の段階での自分の志望は大事にすべきだ ■ 就職活動では自分の理想を実現しようとするべきだ ■ 就職活動では志望企業を中心にスケジュールをたてるべきだ | <ul style="list-style-type: none"> ■ 最初の段階ではいろいろな業界を広く浅く検討すべきだ ■ 最初の段階での自分の志望にこだわらず柔軟に考えるべきだ ■ 就職活動では夢を追うより現実的な選択を目指すべきだ ■ 就職活動では滑り止めや面接の練習を考慮してスケジュールをたてるべきだ |

(下村,2005)

本研究結果の示唆

- 進路選択は記憶負荷（認知的負荷）の高い課題である。(Peterson, Sampson & Reardon, 1991; 下村, 1996)
- 就職活動は身体的にも精神的にもストレスフルな活動(下村, 1998)
明確な目標・手順がなければ、自分が何をしているのかを見失いがちになる。
進路意思決定におけるメタ認知の重要性
- 志望が明瞭な者は、茫然とした就職活動の情報探索に一定の秩序を生み出し、はっきりとした手ごたえをつかみながら情報探索を進めていくことができる。

「やりたいこと志向」と進路意思決定過程

- 「志望の明瞭性」が高い者「やりたいこと」が明確な者ははっきりとした手ごたえを掴みながら情報探索を行うことができた。
「やりたいこと志向」は望ましい情報探索方略を導く。

□ しかし「何らかの特定の選択肢にこだわる」ということではなく...

- むしろ、様々な選択肢を精査し、膨大な選択肢を絞り込んでいく機能を果たす「何らかの内的な選択基準群」のようなものと考えられるべきである。